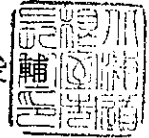


根 都 整 第 397 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

北海道根室市長 長谷川 俊



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年 9 月19日付け国道企第 37 号で意見・提案の提出の依頼がありましたことについて、別紙のとおり回答いたします。

（建設水道部都市整備課）

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道根室市

1. 地方の産業発展のために不可欠の基盤である全国的な高速自動車網の確立は、広域的な連携・交流そして地域経済の活性化に欠かすことができず、併せて緊急医療・災害に対応した代替性確保など多岐な役割を持つものであります。
この国土の骨格となる高速自動車網の整備について、国が責任を持って実施すべきところを、計画だけで依然として未整備な地域があり、全国一律的な考えのもとでの整備は救急医療の面からも地方の格差が益々広がるものであります。
2. とりわけ広大な土地に自治体が点在する北海道では、道路は地域住民の生命を守る救急医療のネットワークであり、雪害などの災害時の代替道路の役割を担っているものです。
3. これに加えて、円滑な走行が可能な現国道にするため、構造・規格の見直しを要望するものであります。

今後の道路行政についての意見・提案

②ー1 地域の現状と抱える課題

様式②

北海道根室市

○現状

1. 本市は、豊かな水産資源に恵まれた北方海域の漁業基地として、全国主要消費地に生鮮食料品の供給を担っており、またロシアとの交易が増大している重要港湾根室港から水揚げされる水産物は、トラック輸送により消費地に供給されることから、北海道の最東端という地理的ハンディを背負っています。

2. 当市を取り巻く地域医療の現状は、平成19年で年間延べ約28,700人の数多くの根室市民が、高次医療を求めて釧路市内の医療機関に通院しています。

また、釧路市への救急搬送は、年間258件に上っている現状にあります。

○課題

1. 高速交通網が未整備なために、首都圏をはじめとする消費地までの輸送コストの軽減や生鮮水産物の付加価値としての鮮度確保が課題であります。

2. 高次医療機関までの救急搬送時間短縮及び冬期間における移動時の安全性の確保が求められています。

②-2 地域の目指すべき将来像

北海道根室市

1. 当市のめざす「まちづくり」は、市民一人ひとりがまちづくりの主役という意識と責任のもと、市民自ら考え選択するなど市民と行政の協働をキーワードとして、個性と独自性を発揮したまちづくりをめざします。
2. 日本有数の豊かな自然、歴史、文化など、ほかのまちにない数多くの資源と遺産を活かし、すべての市民が将来に夢をもって暮らし、地域が活力にあふれている姿をめざします。
3. このまちづくりをめざす中で、市民生活の利便性の向上、産業の振興、物流の効率化や高次医療の享受、また、人的・物的交流や広域観光の確立、緊急・災害に対応した代替性確保のため、高速交通ネットワークの整備促進が必要となっております。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式④

北海道根室市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
1. 交通の定時性・安全性の向上	① 防風林帯の設置 ② 中央分離帯の設置 追い越し車線の設置	① 冬期間の地吹雪による通行止めの回避。 本年4月1日、三陸沖から急速に発達した低気圧が北海道南東海上を通過したとき、北の風が雪を伴って根室地方は暴風雪となった。(最大瞬間風速33.8m/s) 当市においては、国道・道道が全面通行止めとなり、22時間もの間、陸の孤島となり市民生活を直撃しました。 ② 一年を通しての正面衝突事故の低減。 過去5年間(H13～H17)の死亡事故は、全て冬期かつ正面衝突事故であります。(死者4人/5年)	◎現国道の整備
2. 自然災害に強い都市づくり	① 緊急輸送道路の耐震確保	① 橋梁耐震補強を実施した道路延長の増加。 本市は、地震・津波などの多発地帯に位置し、これまでも、市民生活や社会・経済活動に甚大な被害をもたらしています。また、政府の地震調査委員会が公表した長期評価によると今後の根室沖における地震発生の確率は最大で40%、規模はマグニチュード7.9程度の予測となっています。	